

鎌倉市の産業の特徴

鎌倉市で
近年伸び
の見られ
る産業

医療、
福祉

医療業

福祉関連業

教育、学習支援業

鎌倉市で
多くの人
が携わる
産業

小売・
飲食

飲食店

飲食料品小売業、
その他小売業

医療、福祉

全国平均との比較
産業特化係数での分析

男女別の特性
周辺都市との比較分析

鎌倉市の
就業形態

オフィス従業者が多い

鎌倉市の
新たな動き

カマコンバレーなど
起業化、新産業創出の動き

データ等からの現状分析

- 「医療、福祉」として、平成26年には平成21年に比べ、86事業所、2814人の従業者が増加している。
- 中分類「医療業」で見ると、平成24年までの3年間で332人従業者が増加している。
- 中分類「社会保険・社会福祉・介護事業」で見ると、平成24年までの3年間で16の事業所、437人の従業者が増加している。
- 「医療業」「社会保険・社会福祉・介護事業」とともに、従業者数およびその伸びの多くを女性が担っている。
- 近年、事業所数、従業者数がともに増加している。
- 平成26年には平成21年に比べ、11の事業所、560人の従業者が増加。
- 平成26年において「卸売業・小売業」が鎌倉市の全産業に占める割合は、事業所数で28.2%、従業者数で20.6%となっている。
- 中分類別では全産業において「飲食店」の従業者が最も多く、平成24年で全従業者の12.1%を占めており、周辺都市よりも高い割合となっている。
- 「飲食料品小売業」が従業者数で3位（全産業中、8.1%の従業者数）、「その他の小売業」が同じく5位（全産業中、5.1%の従業者数）となっており、雇用力が高い
- 中分類別の従業者数で、「医療業」が2位（全産業中、9.0%の従業者数）、「社会保険・社会福祉・介護事業」が4位（全産業中、6.0%の従業者数）となっている。特に「医療業」は他都市に比べ従業者割合が高い。
- 各産業の構成比率の割合を全国平均と比較した特化係数をみると、「情報通信業（男）」「学術研究、専門・技術サービス業（男女）」「宿泊業、飲食サービス業（男女）」などが全国に比べ極めて高くなっている。
- 周辺都市と比べ男女とも「飲食店」の従業者に占める割合が高い。加えて女性では「医療業」、男性では「情報サービス業」の割合が高くなっている。
- 本市に住んでいる従業者の49.2%、本市で働いている従業者の41.4%がオフィス従業者で、他都市に比べ高い構成比率となっている。
- 鎌倉市では、IT系ベンチャー企業などによる「カマコンバレー」の活動を始めたとして、起業化や新産業の創出に向けた企業連携や人的なネットワークが存在している。

今後検討すべき視点

視点1 従業者・事業所の増加が見られる産業を伸ばす

- ✓ 「医療」「福祉」「教育・学習支援」は、雇用を増加させており、稼ぐ力も強い。
- ✓ 特に「医療」は近隣都市などと比べても従業者割合が高い。

視点2 多くの人携わる産業を伸ばす

- ✓ 「飲食」「小売」関連については、雇用力が高く、鎌倉市の従業者数に占める割合が極めて高い。
- ✓ これに加え「宿泊業、飲食サービス業」の従業者割合も全国平均に比べ高いことから、観光の視点も含めた上で、既存産業の「強み」をより強固にしていく。

視点3 女性の活躍の場をつくる

- ✓ 「医療」「福祉」「飲食」「小売」などこれまで、女性が活躍してきた産業に加え、鎌倉を特徴づける産業の一つである「情報サービス」などにおいても女性の参画を促進する。

視点4 新たな産業の芽を伸ばす

- ✓ カマコンバレーなどを素地として飛躍が期待されるIT産業等の新産業を伸ばしていく。
- ✓ 鎌倉市に不足している「オフィス」を供給する手法を検討する。